

令和8年度第1回医療審議会における協議の概要・主な方向性（新たな地域医療構想の策定）

協議事項		協議の概要・主な方向性
構想区域	嶺北（福井・坂井、奥越、丹南）	- 福井・坂井、丹南、奥越を含めた嶺北全体を一つのまとまりとして捉え、基幹病院が連携しながら地域医療を支えていく考え方が示された。（病院） - 嶺北は時間的なアクセス圏として比較的まとまりがあり、広域的な連携を前提とした構想区域のあり方が提起された。（病院） - 一方で、福井・坂井構想区域を一括りに捉えるのではなく、福井市と坂井市など地域ごとの医療資源や担い手の状況の違いにも配慮すべきとの指摘があった。（医療団体） - 基幹病院については、一つの病院への機能集約ではなく、それぞれの強みや地域特性を活かした役割分担の必要性が示された。（病院） - 福井赤十字病院は丹南地域、福井県済生会病院は奥越地域、福井県立病院は福井・坂井地域を支えるなど、病院ごとの特性を活かした連携の方向性が示された。（病院） - 福大病院については、県内医療機関との役割分担のもと、高度専門医療や重症患者への対応を担う役割が示された。（病院） - 嶺北地域においては、基幹病院がどのように役割分担しながら地域医療を支えていくかが重要な論点となった。
	嶺南	- 嶺南については、一つの構想区域として考えることについて概ね理解が示された。高度専門医療については、大学病院等や嶺北地域との連携を前提に検討する方向性が共有された。（病院、学識経験者） - 救急・急性期医療については二州と若狭の両地域で確保し、高度専門医療については嶺南全体で役割分担や集約化を検討すべきとの考え方が示された。（病院） - 市立敦賀病院と公立小浜病院を中心に、急性期から回復期、慢性期、在宅医療まで切れ目なく連携し、嶺南全体で医療を支える体制の構築が重要との認識が示された。（病院） - 高度医療機器の有効活用や医療人材の確保、診療所機能の維持も見据えながら、嶺南全体で医療機関の役割分担や人員配置を検討する必要性が示された。（病院） - 急性期医療や救急医療を維持するためには、医師確保に加え、施設整備など医療基盤の維持・強化も重要な課題として挙げられた。（病院）

【凡例：主な発言者】

（病院）病院代表委員／（医療団体）医療関係団体代表委員／（受療者）受療者代表委員／（保険者）保険者代表委員／（学識経験者）学識経験者委員 1

令和8年度第1回医療審議会における協議の概要・主な方向性（新たな地域医療構想の策定）

協議事項	協議の概要・主な方向性
急性期医療	・ 高齢者救急など地域に身近な救急機能と、高度専門医療を担う急性期拠点機能は分けて考える必要性が示された。（病院） ・ 高齢者救急については、可能な限り住民に近い地域で確保し、高齢者医療や在宅医療との連携も含めた体制づくりが求められた。（病院、受療者） ・ がん診療や重症患者への対応などの高度専門医療については、得意分野を有する医療機関が担い、病院間で役割分担を進めるべきとの考え方が示された。（病院） ・ 急性期拠点病院であっても単独ですべての医療を完結することは難しく、県立病院、赤十字病院、済生会病院、福大病院などが連携しながら医療機能を確保する方向性が共有された。（病院） ・ 福大病院については、重症患者や高度専門医療への対応に加え、医師派遣や人材育成を通じて地域医療を支える役割が期待された。（病院）
住民視点・医療アクセス	・ 構想区域の検討に当たっては、人口規模や患者流出入だけでなく、交通事情や受診のしやすさなど、住民の暮らしの視点を重視すべきとの指摘があった。（受療者、保険者） ・ 高齢化が進む中で、高齢者救急、急性期後の受入れ、在宅復帰支援など、住み慣れた地域で高齢者を支える医療機能の維持が重要との認識が示された。（受療者） ・ 医療提供体制については、医療機関の機能だけでなく、在宅医療、介護、交通を含めた地域全体の支援体制として考える必要性が示された。（受療者） ・ 公共交通の減便や運転免許返納などを見据え、通院や救急時の移動手段をどのように確保するかが重要な課題として挙げられた。（受療者、保険者） ・ 若狭地域など県境地域については、地域特性や受療行動を踏まえ、県外との連携も含めて検討すべきとの考え方が示された。（保険者）

【凡例：主な発言者】

（病院）病院代表委員／（医療団体）医療関係団体代表委員／（受療者）受療者代表委員／（保険者）保険者代表委員／（学識経験者）学識経験者委員 2

令和8年度第1回医療審議会における協議の概要・主な方向性（新たな地域医療構想の策定）

協議事項	協議の概要・主な方向性
医療人材確保	• 医師、看護職員、薬剤師、歯科医師、管理栄養士、ケアマネジャーなど幅広い職種で人材不足が課題となっており、地域医療を支える担い手の確保が重要との認識が示された。（医療団体） • 診療所、薬局、歯科診療所では高齢化や後継者不足が進んでおり、地域によっては医療提供体制そのものの維持が課題となることへの懸念が示された。（医療団体） • 高齢者医療や在宅医療の需要が増加する中、管理栄養士やケアマネジャーなど、地域包括ケアを支える人材の確保も重要との指摘があった。（医療団体） • 地域医療を維持するためには、医療人材の育成・県内定着に加え、福大病院による医師派遣や人材育成機能の強化が重要との考え方が示された。（病院、学識経験者） • 将来的な人材不足への対応として、DXやAI等の新たな技術の活用を検討すべきとの提案があった。（学識経験者）

【凡例：主な発言者】

（病院）病院代表委員／（医療団体）医療関係団体代表委員／（受療者）受療者代表委員／（保険者）保険者代表委員／（学識経験者）学識経験者委員 3